

「魂と霊と聖霊。」

I コリント 14 章 10～19 節

人は霊、魂、身体でできています。「あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。」(I テサロニケ 5・23) とあるので、どれが優越するというものではなく、すべてが大事です。魂は、知性、感情、意志からなっており、人間の霊は罪によって神との交流のないものになってしまいました。ですから、「キリストの来臨のときに、責められる」のです。

人間の本質は霊にあり、霊が聖霊に満たされていたら、神の創造の目的「すべてのものを支配せよ。」(創世記 1・28) どおりに生きられるのです。人は、「いのちの息を吹き込まれた。」(同 2・7) ので、動物とは違い、霊的な存在なのです。ですから、犬や猫などのペットが天国に行くなどと勝手に考えてはいけません。

人間の霊は、その人の人格に関わり、傲慢、高慢、怠慢、欺瞞、好色、好戦的、汚れ、遊興、などの様相を呈します。このようなものは、「肉の欲望」(ガラテヤ 5・16) であって、御霊に満たされ、御霊によって歩まないと滅びに進んでしまいます。

知性は人に善悪を教え、この世の在り様と人の生き様を教えますが、知性だけでは、人は正しく生きられません。「汚れた不信仰な人たちは、何一つきよいものもなく、その知性も良心も汚れています。」(テトス 1・15)。この知性が聖霊に導かれていないと、とんでもない欲望に支配されてしまいます。金銭欲、出世欲、など、「彼らは知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、頑なな心のゆえに、神のいのちから遠く離れています。」(エペソ 4・18)。日本人は知性を求める傾向が強いのですが、意思が強くなく、霊性も育っていないので、人や権力に利用される傾向があります。

感情は、喜怒哀楽に繋がりが、人間性の大事な部分ですが、感情に左右されると道を誤ることもあります。「愚かな者は感情のすべてをぶちまけ、知恵のある人はそれを内に収める。」(箴言 29・11)。

意志の強い人は、成功を収めることが多く、多くの人が意志を強くしようとしています。ただ、意志が強いだけでは他の人との考えの疎通がうまくいかず、仲違いしたり失敗をしてしまいます。「わたしは自分の意志ではなく、わたしを遣わされた方のみこころを求めるからです。」(ヨハネ

5・30) とイエス様は言われました。

人間の知性、感情、意志で努力しても、結局のところ、罪の産物なので、争いや欲にまみれて失敗をしてしまいます。サウルは、神に選ばれ、「新しい心を与えられた。」(II サムエル 10・6)。しかし、預言者サムエルは、「主は、全焼の捧げ物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。」(同 15・22) として、怒りました。

多くの人が、その魂のままに行動しています。信仰者でさえ、祈り聖霊に満たされることを求めずに、聖霊の導きを求めずに判断し、失敗しています。「あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るものではありませんか。」(ヤコブ 4・2)。この言葉は、信仰者に対するものです。「世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。」(同 4)。

終末は、サタンと悪霊の暗躍する時代です。確かに、世の中は誘惑に満ちています。注意すべきは、サタンの用意する誘惑は、個人仕様で、一人一人の弱点に焦点が当てられています。金銭欲の強い人には金銭で、性的な誘惑に弱い人には好色で、意地の強い人には頑固さで道を外します。私は、牧師として、そのような誘惑に負けて信仰を外れた多くの信者を見してきました。

今日の聖句は、祈りの極意です。異言で祈りながら、その異言の意味を知ろうと努めるのです。「異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。」(14・2)。「私たちは、何をどう祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。」(ローマ 8・26)。「それを解き明かすことができるように祈りなさい。」(14・13)。

魂の強い人は、それだけ間違った方向に行くことが多いようです。神に聞く祈りができないと、神に叫びながら、道を踏み外してしまいます。踏み外して戻った人は、非常に少ないのです。「あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことがあります。」(ヘブル 12・4)。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳 2017】

I コリ 14:10 世界には、おそらく非常に多くの種類のことばがあるでしょうが、意味のないことばは一つもありません。

14:11 それで、もし私がそのことばの意味を知らなければ、私はそれを話す人にとって外国人であり、それを話す人も私には外国人となるでしょう。

14:12 同じようにあなたがたも、御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会を成長させるために、それが豊かに与えられるように求めなさい。

14:13 そういうわけで、異言で語る人は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。

14:14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。

14:15 それでは、どうすればよいのでしょうか。私は霊で祈り、知性でも祈りましょう。霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。

14:16 そうでないと、あなたが霊において賛美しても、初心者の席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。

14:17 あなたが感謝するのはけっこうですが、そのことでほかの人が育てられるわけではありません。

14:18 私は、あなたがたのだれよりも多くの異言で語っていることを、神に感謝しています。

14:19 しかし教会では、異言で一万のことばを語るよりむしろ、ほかの人たちにも教えるために、私の知性で五つのことばを語りたいと思います。

哥林多前書 14

10 世界上也許有好多種語言，但沒有一種是沒有意思的。

11 所以，如果我不明白那語言的意思，那麼，對於說話的人，我就是個外族人；對於我，那說話的人也是個外族人。

12 你們也是這樣：既然你們對屬靈的事是熱心人，就應當追求造就教會的事，好讓你們能豐足有餘。

13 所以，說殊言的人應當禱告，好讓自己能翻譯出來。

14 如果我用殊言禱告，是我的靈在禱告，但我的理性卻是結不出果子的。

15 那麼該怎麼辦呢？我要用靈禱告，也要用理性禱告；我要用靈歌頌，也要用理性歌頌。

16 否則，如果你用靈祝謝，在場的那些不明白的人，既然不知道你在說什麼，怎麼能在你感謝的時候說「阿們」呢？

17 因為你感謝的固然是好，但別人卻沒有得造就。

18 我感謝神，我說殊言比你們所有人都多；

19 但是在教會裡，為了要教導別人，我寧願用我的理性說五句話，也不願用殊言說萬句話